

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 後期（英語）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 33(66%) 2. 17(34%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 26(52%) 2. 22(44%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(4%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 33(66%) 2. 15(30%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(4%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 29(58%) 2. 20(40%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(2%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 22(44%) 2. 24(48%) 3. 3(6%) 4. 0(0%) 未回答 1(2%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 32(64%) 2. 17(34%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(2%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 38(76%) 2. 12(24%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 38(76%) 2. 12(24%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 30(60%) 2. 15(30%) 3. 4(8%) 4. 0(0%) 未回答 1(2%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 28(56%) 2. 21(42%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(2%)

B (Q11.~Q15) : F D活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 9 (18%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 28 (56%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 6 (12%)
- 4.その他： 21 (42%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 14 (28%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 31 (62%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 9 (18%)
- 4.その他： 26 (52%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：20クラス (順不同)

1. 今年度はできるだけ対面を採り入れ、コミュニケーションに関する活動も増やし、科目の目的にできるだけ沿った授業を行うことができた。また対面による多読資料の貸出も行うことができ、その点も授業の主旨に沿った活動を行うことができた。
2. 昨年度は、ウィルス感染拡大防止のため遠隔授業のみであったが、学生の殆どは対面授業を希望していた。それを踏まえ、今年度は感染対策に努め、可能な限り対面で授業を行った。学生が、より多くの英文記事に触れることが可能なスケジュールを考え、実施した。(4クラス)
3. オンデマンド型から、Zoom を利用した同時型にしたことで、学生の質問に直接答えられたり、またこちらから質問することができ良かったと思います。また、Zoom を利用することで学生が音読するときに、他の学生の声に邪魔されることなく、それぞれが集中してやることができた点も良かったと思います。(2クラス)
4. 今年度はできるだけ対面を採り入れ、コミュニケーションに関する活動も増やし、科目の目的にできるだけ沿った授業を行うことができた。また対面による多読資料の貸出も行うことができ、その点も授業の主旨に沿った活動を行うことができた。
5. 昨年と異なり、対面での実施を多く取り入れ、コミュニケーション活動を多く含めることで、より科目の目的に沿った授業を行うことができた。
6. I continuously strive to refine my response to learner needs and problems. That said, COVID has been a nightmare for all concerned. (2クラス)
(私は、学習者のニーズや問題への対応を改善するために継続的に努力しています。とはいえ、新型コロナは関係者全員にとって悪夢でした。)
7. ASSIGNMENT CREATION AND SUBMISSION PROCESS MADE EASIER TO UNDERTAKE AND COMPLETE (課題の作成と提出のプロセスがより簡単になり、着手と完了が容易になりました。)
8. 最終発表を準備とフィードバックをより多く行えるため学期のもっと早い段階から始まった。
9. 医学研究、学生同士の教え合いが増える。
10. always adjusting (2クラス) (常に調整中)
11. 読書や研究活動を多く取り入れました。グループをもっと回転させた。最終評価を少人数制に改善した。
- 12.. Always improving clinical minutiae

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 後期（英語）

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：17クラス（順不同）

1. 対面授業に WebClass の機能を積極的に取り入れ有効活用した。特に、教材提示や peer review を用いることで学習活動のバリエーションを増やすことが可能となった。（3クラス）
2. Zoom を利用してリアルタイムで授業をすることで、Breakout Room を利用し、学生らが互いに問題を出し合う機会が持て、また、わたくしもその部屋を訪れることで学生からの質問に答えたり、発音や、訳出の訂正などができたことが良かった点です。（3クラス）
3. Students' abilities to respond to task protocols seem weaker in the aftermath of COVID. This has led me contemplate ways in which I can more effectively teach learning strategies, and reduce misunderstanding of active learning protocols on the part of the learners. (タスクプロトコルに対応する生徒の能力は、新型コロナの余波で弱まっているようです。これにより、学習戦略をより効果的に教え、学習者側の能動学習プロトコルの誤解を減らす方法を熟考するようになりました。)（2クラス）
4. 英語教育の知見を生かして、5 領域（聞く、話す[やり取り・発表]、読む、書く）を総合的・統合的に育成するような活動を行うことができたと考えます。「書く」活動として、エッセイ・ライティングを行い、学生同士の相互評価は行えたものの、教師からのフィードバックに時間がかかってしまい、よいタイミングで返却できなかった点は、学生の学修への動機づけといった観点から見直さなければならないかもしれません。
5. テキストは学生の興味関心に合っており、学生からもよかったという意見があった。
反省すべき点は、コロナのため、期末の筆記テストができなかった。そのため、最終的な英語力の計測について評価することが難しかった。
6. 受講生の故郷を英語で紹介するための音声（動画）付き資料の作成を目標設定に据えることで、発信型の英語力の育成を重視した授業を展開することができた。
反省すべき点として、受講生の英語力が想定よりもかなり低く、教科書及び教科書に付属している視聴覚教材の内容が受講生にとって理解しづらいものとなってしまうていた。引き続き、受講生の英語力と興味・関心を踏まえた教材選びができるように今後配慮していきたい。
7. IMPROVE ASSIGNMENT EXAMPLES AND EXPAND OPTIONS FOR CONTENT. (課題の例を改善し、コンテンツの選択肢を広げる)
8. コロナウイルスによりオンラインでしか授業を行うことができなかった点。
9. コロナウイルス終息によるオンライン以外での授業の実施。
10. 医学研究活動を楽しんでいただきました。
11. 新しいスキルの練習を紹介する前に、生徒たちにアクティビティを試してもらいました。
12. 大人数のクラスなので、少人数でローテーションを組むと、交流も深まるし、クラス運営にも役立ちます。生徒たちは将来、医学論文を読む必要があるので、新しい読書や研究活動にはとても満足しています。
13. Some elements of case presentation could be ordered differently.

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 後期（英語）

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 48 (96%) 2.いいえ： 1 (2%) 未回答： 1 (2%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 42 (88%)
- 2.読んで理解する： 43 (90%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 41 (85%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 37 (77%)
- 5.討論する： 24 (50%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 20 (42%)
- 7.その他： 4 (8%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：24クラス（順不同）

1. 多読、音読、ペアワーク、グループワークの多用（3クラス）
2. 英語の多読を行い、授業の中で内容について英語でまとめて自分の考えを述べる活動を行った。（2クラス）
3. 発表者がオーセンティックな英文記事を見つけ、クラスメンバー全員に記事と発表者作成による質問を提示する。全員がリーディングを行った後、発表者が記事について解説し、討論を行う活動。自分の考えをまとめて伝える英文エッセイ構造を学び、各自エッセイを作成し提出する活動。（3クラス）
4. 授業開始前に、学生に直接英語で質問をしました。また、ZoomのBreakout roomを利用して学生が互いに問題を出し合う作業を毎回実施した。（3クラス）
5. 専門に関わる事柄を英語でお互いに説明し、協同作業を行う学習活動を行った。
6. グループ内役割分担（リーダー、ノートテイク、タイムキーパー）を行った。英語でディスカッションを進行させる教材をリーダーに提示し、グループメンバーに予習でまとめた自分の考えを発言させ、ノートテイクがGoogle Formに記入し提出する、という活動を行った。
7. Students participate in regular group work activities in responding to multimedia language learning resources, discussion questions, and in sharing and discussing their own research project presentation sessions. (学生は、マルチメディア言語学習リソース、ディスカッションの質問に答えたり、自分の研究プロジェクトのプレゼンテーションセッションを共有したり話し合ったりするために、定期的なグループ作業活動に参加した。)(2クラス)
8. (上記)すべての面に対してアプローチを行った。英語の授業では5領域の総合的・統合的な育成が求められると考えているため、上記の点は1回の講義で取り入れなくても2～3回ですべてが網羅できるようにして、15回のうちに複数回取り組めるように意識した。
9. 一人ずつ、発表する機会を2回も受けている。またグループ学習も取り入れている。
10. 問14の回答と一部重複するが、受講生の故郷を英語で紹介するための音声（動画）付き資料の作成を目標設定に据えることで、発信型の英語力の育成を重視した授業を展開した。

11. IT IS A SPEAKING / LISTENING COMMUNICATION COURSE - MEANINGFUL COMMUNICATION IS CENTRAL（これはスピーキング/リスニング コミュニケーション コースです（すなわち） 有意義なコミュニケーションが中心です）
12. 自分の考えを録音して提出することによりプレッシャー少なく自分の考えを語彙をまとめて英語で発表することを推進できた。
13. 自分の答えを英語でまとめ、発声し、録音して提出することによりクリエイティブにそしてプレッシャーなく能動的な英会話を実現する。
14. グループプレゼンテーション
15. グループワークを主体とした
16. ロールプレイ
17. コース全体では、英語と日本語の両方でコミュニケーション能力を高めることに重点を置いています。
18. Pair work case presentations performed repeatedly. 3 way role play performances by all.

D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 6 (12%) 2.いいえ： 43 (86%) 未回答： 1 (2%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1. 1回～5回： 6 (100%) 2. 6回～10回： 0 (0%) 3. 11回～15回： 0 (0%)
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化： 5 (83%) 2.政治・経済・産業： 5 (83%)
3.自然環境・フィールド体験： 2 (33%) 4.その他： 2 (33%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：7クラス（順不同）

1. Zoom の Breakout room で学生がお互いの故郷について説明をしあった後、その内容を作文にし、提出させました。（3クラス）
2. I introduce local examples of themes introduced in the textbook based activities regarding general themes on local or regional culture, social, economic, and/or environmental issues of contemporary concern.（地域の文化、社会、経済、および/または現代の環境問題に関する一般的なテーマについて、教科書に基づき、地元の例を紹介しました。）（2クラス）
3. 妻の妊娠中の本を生徒たちに使って英語に訳し、勉強し、考えさせました。
4. 子供のリアル妊娠ベビーブックを使いました。そこで学生たちはそれを分析し、英語に翻訳し、私の妻と2人の子供の妊娠の間にどんな違いがあるのかを比較して勉強しました。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 2 (4%)	2.10%以内： 0 (0%)	3.10%～20%： 0 (0%)
4.21%～30%： 6 (12%)	5.31%～40%： 3 (6%)	6.41%～50%： 4 (8%)
7.51%～60%： 6 (12%)	8.61%～70%： 3 (6%)	9.71%～80%： 2 (4%)
10.81%～90%： 8 (16%)	11.91%～100%： 16 (32%)	

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 14 (29%)	2.双方向（対話・討論）： 31 (65%)	
3.グループワーク： 36 (75%)	4.フィールド型： 0 (0%)	5.メディア活用： 26 (54%)
6.TA 活用： 0 (0%)	7.その他： 5 (10%)	

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 12 (24%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 27 (54%)
- 3.英語のみで板書している： 14 (28%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 21 (42%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 29 (58%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 23 (46%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 32 (64%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 25 (50%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 31 (62%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 28 (56%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 後期（保健・体育）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 0(0%) 2. 2(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(50%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 2(50%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(50%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 0(0%) 2. 2(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(50%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 0(0%) 2. 2(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(50%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 2(50%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(50%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 2(50%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(50%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 2(50%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(50%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 0(0%) 2. 0(0%) 3. 1(25%) 4. 1(25%) 未回答 2(50%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 2(50%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(50%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 0(0%) 2. 2(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(50%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 0 (0%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 2 (50%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 2 (50%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 0 (0%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 2 (50%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 2 (50%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：0クラス（順不同）

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：4クラス（順不同）

1. 世話人として、初回授業のガイダンスを担当した他、非常勤講師の授業担当者が円滑に授業運営できるよう都度対応を図った。(2クラス)
2. 学生の欠席も少なく、非常に意欲的に取り組んでくれた。
授業においても、学生が自ら活動をしながらも教員としての視点を持つことを意識させることができた。
3. 学生の欠席が非常に少なく、意欲を持って参加していた。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 2 (50%) 2.いいえ： 0 (0%) 未回答： 2 (50%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 0 (0%)
- 2.読んで理解する： 0 (0%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 2 (100%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 0 (0%)
- 5.討論する： 0 (0%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 0 (0%)
- 7.その他： 0 (0%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：2クラス（順不同）

- 1. スポーツの特性を生かしたコミュニケーション力の向上を目指し、練習や試合の後に互いの意見を交換するという場を設けた。(2クラス)

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 0 (0%) 2.いいえ： 2 (50%) 未回答： 2 (50%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 0 (0%) 2.6回～10回： 0 (0%) 3.11回～15回： 0 (0%)
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

- 1.歴史・文化： 0 (0%) 2.政治・経済・産業： 0 (0%)
- 3.自然環境・フィールド体験： 0 (0%) 4.その他： 0 (0%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：0クラス（順不同）

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 0 (0%) 2.10%以内： 0 (0%) 3.10%～20%： 0 (0%)
4.21%～30%： 0 (0%) 5.31%～40%： 0 (0%) 6.41%～50%： 0 (0%)
7.51%～60%： 0 (0%) 8.61%～70%： 0 (0%) 9.71%～80%： 0 (0%)
10.81%～90%： 0 (0%) 11.91%～100%： 2 (50%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 0 (0%) 2.双方向（対話・討論）： 2 (100%)
3.グループワーク： 2 (100%) 4.フィールド型： 0 (0%) 5.メディア活用： 0 (0%)
6.TA活用： 0 (0%) 7.その他： 0 (0%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.授業を英語のみで行っている： 0 (0%)
2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)
3.英語のみで板書している： 0 (0%)
4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 0 (0%)
5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 0 (0%)
7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)
10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 後期（専門基礎）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 2(100%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 1(50%) 2. 1(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 2(100%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 2(100%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 2(100%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 2(100%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 2(100%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 2(100%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 2(100%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 2(100%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 1 (50%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 0 (0%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 0 (0%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 1 (50%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 0 (0%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 0 (0%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：1クラス（順不同）

1. アクティブラーニングを進めるという観点から、授業の中で主体的に意見交換ができるよう学生一人一人の活動の時間を保証した。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：1クラス（順不同）

1. 学部2年生を対象とした「教職キャリア教育」であるため、できるだけ自分自身の具体的な実践を示すよう心掛けた。このことにより教職のイメージが描きやすいものになったと思う。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 1 (50%) 2.いいえ： 1 (50%) 未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 1 (100%)
- 2.読んで理解する： 1 (100%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 1 (100%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 1 (100%)
- 5.討論する： 1 (100%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 1 (100%)
- 7.その他： 0 (0%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：1クラス（順不同）

- 1. ただ自分なりに表現するのではなく、アサーショントレーニングを取り入れた。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 1 (50%) 2.いいえ： 1 (50%) 未回答： 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 0 (0%) 2.6回～10回： 1 (100%) 3.11回～15回： 0 (0%)
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

- 1.歴史・文化： 1 (100%) 2.政治・経済・産業： 1 (100%)
- 3.自然環境・フィールド体験： 1 (100%) 4.その他： 0 (0%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：1クラス（順不同）

- 1. 宮崎県教育委員会独自の教育施策等について詳説した。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 1 (50%) 2.10%以内： 0 (0%) 3.10%～20%： 0 (0%)
4.21%～30%： 0 (0%) 5.31%～40%： 0 (0%) 6.41%～50%： 0 (0%)
7.51%～60%： 0 (0%) 8.61%～70%： 1 (50%) 9.71%～80%： 0 (0%)
10.81%～90%： 0 (0%) 11.91%～100%： 0 (0%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 0 (0%) 2.双方向（対話・討論）： 1 (100%)
3.グループワーク： 1 (100%) 4.フィールド型： 0 (0%) 5.メディア活用： 1 (100%)
6.TA活用： 0 (0%) 7.その他： 0 (0%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.授業を英語のみで行っている： 0 (0%)
2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)
3.英語のみで板書している： 0 (0%)
4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 0 (0%)
5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 0 (0%)
7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)
10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 後期（専門教育入門セミナー）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 33(73%) 2. 8(18%) 3. 1(2%) 4. 0(0%) 未回答 3(7%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 28(62%) 2. 13(29%) 3. 1(2%) 4. 0(0%) 未回答 3(7%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 29(64%) 2. 12(27%) 3. 1(2%) 4. 0(0%) 未回答 3(7%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 31(69%) 2. 9(20%) 3. 1(2%) 4. 0(0%) 未回答 4(9%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 30(67%) 2. 9(20%) 3. 3(7%) 4. 0(0%) 未回答 3(7%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 31(69%) 2. 10(22%) 3. 0(0%) 4. 1(2%) 未回答 3(7%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 32(71%) 2. 7(16%) 3. 3(7%) 4. 0(0%) 未回答 3(7%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 22(49%) 2. 14(31%) 3. 6(13%) 4. 0(0%) 未回答 3(7%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 27(60%) 2. 14(31%) 3. 1(2%) 4. 0(0%) 未回答 3(7%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 29(64%) 2. 12(27%) 3. 1(2%) 4. 0(0%) 未回答 3(7%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 1 (2%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 32 (71%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 6 (13%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 5 (11%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 31 (69%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 3 (7%)
- 4.その他： 5 (11%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：10クラス（順不同）

1. グループディスカッションの発表形式について見本を示してもらえると準備しやすいという意見があったので、プレゼンテーションの型を示した。
2. 学生との対話を大切にした。
3. オンライン上のコーパスの使用条件を整えることができた。
4. 学生間の活発な質疑応答。
5. コロナの蔓延で1回目はリモートにて、課題呈示を行い、2回目の授業でその解説を行った。
6. 学生にとって学びのある活動の場となるように工夫した。
7. 昨年度はコロナ禍のため実施できなかったフィールドワーク等を、今年度は実施することができた。
8. レポート課題に対して、昨年度多かったミスについて説明し、適切なレポートを作成できるようにした。
9. 本科目は4名の教員がそれぞれの専門性を活かしたオムニバス形式で順番に授業を行っている。昨年度はコロナ禍によりアクティブ・ラーニングが制限されたが、今年度は、出来得る限りの感染対策をとり、すべてのテーマで対面授業でのプレゼンテーションが実施できた。
10. 今年は対面授業ができてよかった。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：8クラス（順不同）

1. 倫理やキャリア支援について外部講師による講義をおこなった。
2. 説明を丁寧にしたことは評価できる。碎き過ぎた説明になったことは考え直すべきかと思われる。
3. 各学生のパソコンの状況に違いがあり、課題の進行に一考を要した（ダウンロードがすぐに終わる学生もいれば、延々とかかる学生がいる。またファイルを立ち上げるとなぜか他のアプリが立ち上がる）。
4. オムニバス形式で、例年2コマ担当のところ、3コマ担当した。その分、1コマの内容を濃くでき、また、前回の復習や学生コメントを受けての補足など、充実させることができたと考えられる。
5. オムニバス形式の授業であったが、受講生の出席管理も含めて、各担当教員間の連携を密にしながら授業の目標・内容を設定し、計画通りに授業を実施することができた。当講座では、専門教育入門セミナーを、各専門科目及び各指導法関連科目で扱う知識・技能等の導入を行う科目として位置付けている。引き続き、英語科のカリキュラムの見直しとともにセミナーの目標やセミナーで扱う内容について、講座の教員同士で議論を重ね、改善に努めたい。
6. 学生にとって初めての専門的な教育法と出会う機会であったので、ごく基本的な内容から、少し発展的な内容まで、学生の様子をみながら進度や内容を調整して進めることができた。
7. 先輩からの大学生活、就職活動、研究室での活動などの話を聞く機会を設け、今後の学習のモチベーション向上に繋がる取り組みを行った。
8. 主体的な学習のスタイルは学生達に好評であった。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 35 (78%) 2.いいえ： 5 (11%) 未回答： 5 (11%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 18 (51%)
- 2.読んで理解する： 14 (40%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 21 (60%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 22 (63%)
- 5.討論する： 17 (49%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 25 (71%)
- 7.その他： 2 (6%)

Q18. 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：18クラス（順不同）

1. ディベートを行った。
2. 専門に関する話題についてディベートを行った。
3. ディベートのコマを3コマ設置している。
4. オンライン形式ではあったが、グループに分かれて意見を出し合った。
5. グループディスカッション、チュートリアル学習、グループディスカッションと英語でのグループ発表などに取り組んだ。
6. 学生間の活発な質疑応答
7. グループワーク実施
8. 特定のテーマについてグループごとに資料作成を行い、発表した。
また発表後、グループ間で質疑応答を行う時間を十分に設けて議論が活発になるよう促した。
9. グループディスカッションを実施した。実施に際し、事前の授業回にテーマを伝え、自宅学習課題として自分の意見をまとめて授業に臨ませた。また、テーマは複数用意し、各自が選択したテーマについて意見をまとめさせることで、動機付けを高め、ディスカッション時にもより主体的に発言し、聴き合えるようにした。
10. 調査結果をワードではなくエクセルにまとめ、図表化することで端的に説明と論証ができることを図った。
11. 課題では、いろんな条件が書かれた文章をもとに地域（島）の地図を描かせ、そこでの生活の仕方に関して考えさせた。2回目の授業では、調査を行って地域の実態を把握し、問題点を捉えてその解決に導くという地理学の考え方をわかりやすく解説した。
12. 具体的な取り組みの一例として、「学校英文法」をテーマとする学術資料を読み、その内容理解と受講生自身の英語学習体験を照らし合わせることで得られた気づきを共有するためのディスカッションやレポート作成を行った。
13. 知識を講義で一方向に注入するのではなく、自分で読んで得た知識や調べたことを発表したり討論したりする機会を提供した。
14. プレゼンテーション時に学生による相互評価を実施し、客観的に学生自身のコミュニケーション能力が確認できるようにしている。
15. 学生が作成したプログラムについてレビューさせ、教員と他の学生と質疑応答を行った。
16. 細島小学校の修学旅行との連携協力において、小学生を相手にしたプレゼン発表を行った。
17. ルーブリックを公表することで、注意すべき点を学生に周知した。
18. 医療人として必要なコミュニケーションについてのロールプレイを実施した。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 25 (56%) 2.いいえ： 15 (33%) 未回答： 5 (11%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1. 1回～5回： 24 (96%) 2. 6回～10回： 3 (12%) 3. 11回～15回： 0 (0%)
未回答： (%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1. 歴史・文化： 8 (32%) 2. 政治・経済・産業： 9 (36%)
3. 自然環境・フィールド体験： 9 (36%) 4. その他： 3 (12%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：7クラス（順不同）

1. 宮崎県の主要な産業である畜産について、県からの外部講師を招いて講義をおこなった。
2. 無人島に漂着した後、様々な知恵を駆使して生き抜く方法を考えさせた。
3. 地域で行われる美術の展覧会等に係る活動を行った。
4. 五ヶ瀬町オープンスクールへの参加、細島小学校の修学旅行との連携協力、宮崎県教育委員会生涯学習課主催の生涯学習交流会への参加。
5. 今年度も基礎教育科目重点配分経費の配分を受け、1泊2日で椎葉村研修が実施できた成果は大きい。
6. 宮崎県と「IoT, AI」、「少子高齢化」、「観光業」に関する調査課題を提示し、調査結果を自分の考えを含めて、レポート形式で報告する取り組みを行った。
7. 宮崎県に起こりうる災害について情報を収集し、大学の建物が避難所となった場合を想定し、看護学生としてできる支援を考察した。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1. 0%： 3 (7%) 2. 10%以内： 1 (2%) 3. 10%～20%： 7 (16%)
4. 21%～30%： 0 (0%) 5. 31%～40%： 3 (7%) 6. 41%～50%： 1 (2%)
7. 51%～60%： 1 (2%) 8. 61%～70%： 4 (9%) 9. 71%～80%： 6 (13%)
10. 81%～90%： 5 (11%) 11. 91%～100%： 9 (20%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1. 少人数（10人程度）： 18 (49%) 2. 双方向（対話・討論）： 22 (59%)
3. グループワーク： 22 (59%) 4. フィールド型： 5 (14%) 5. メディア活用： 19 (51%)
6. TA活用： 1 (3%) 7. その他： 1 (3%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 0 (0%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 3 (7%)
- 3.英語のみで板書している： 0 (0%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 12 (27%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 5 (11%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 4 (9%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 1 (2%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 後期（現代社会の課題）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 19 (70%) 2. 8(30%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 15(56%) 2. 11(41%) 3. 1(4%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 12(44%) 2. 15(56%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 16(59%) 2. 10(37%) 3. 1(4%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 14(52%) 2. 11(41%) 3. 1(4%) 4. 0(0%) 未回答 1(4%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 16(59%) 2. 11(41%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 15(56%) 2. 11(41%) 3. 1(4%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 10(37%) 2. 12(44%) 3. 5(19%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 13(48%) 2. 14(52%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 17(63%) 2. 10(37%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

B (Q11.~Q15) : F D活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 1 (4%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 21 (78%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 2 (7%)
- 4.その他： 3 (11%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 7 (26%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 23 (85%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 4 (15%)
- 4.その他： 1 (4%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：15クラス（順不同）

1. 遠隔授業に適した資料作成
2. 感染対策に留意しつつ、これまで使用していなかった ICT 等を活用し、可能な活動を増やしました。
3. 昨年同様学生の興味関心をそそる授業になるよう努力した。
4. 学生によりわかりやすい情報ソースを探した。
5. 遠隔でも対面と同じ教育効果が出せるようにグループワークの雰囲気作りを行った。
6. 学生のグループ発表の課題文献を、学生の関心に沿うようにより現代的なものに変更した。
7. Zoom のブレイクアウトセッション機能を用いたディベートを複数回取り入れ、学生から肯定的な評価を得た。
8. 授業評価の回答に基づくというよりも、実際の授業の中での学生からの提案、学生とのやり取りを基に、受講生の実態に合わせた授業改善を図っている。(2クラス)
9. 新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら体験できない講義などがあったが、今年は流行がおさまっているときに対面で行うことができた。
10. コロナで昨年度は学生同士のディスカッションが減少していたため、今年度はこれを増やした。
11. コロナ禍におけるレポートの提出方法を改善した。
12. パワーポイントの資料を形式的には簡略化しつつ、より詳細な内容にした。
13. プレゼンのテーマを少し絞り込み、検討しやすくした。
14. 昨年度の授業評価が確認できていません。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：12クラス（順不同）

1. シラバスと対応して作成したルーブリックの活用の取組を継続しています。AI 歌声合成ソフトやブラウザ DAW を活用した遠隔での共同音楽制作を取り入れた実践を行った点は評価できると思います。学生が作成した作品の例を下記に添付しています。
2. 一方的な授業だけでなく、学生が自主的に地域について調べ、プレゼンを行うことで地域の理解、調査の方法など多面的な地域学習に取り組んでいる。
3. グループワーク時にコロナの関係で欠席をする学生が多数存在した。資料作成時に関わり方が弱かったと反省している。
4. 学生に毎回感想レポートを提出させたが、どの回に関しても学生は概ね新しい学びや思考を得られたようである。
5. アクティブラーニングを取り入れた遠隔授業の開発を模索中である。Zoom および WebClass の機能を活用する点は進んだが、教授方法に課題が残る。
6. 毎回提出を課していたフィードバックシートのコメントや質問などを抜粋して次の講義冒頭で紹介した。コメントを紹介しながら前回内容の振り返りを行うことで、当日講義をスムーズに進めることができたと感じる。
7. 接触を伴う体験型講義は難しいが、遠隔講義で双方向性の講義を行うことができた。
8. 毎年改善を加えており、学生の感想も一行書きなどではなくきちんと意見を述べるものも増えており、充実度も増していると感じている。
9. 宮崎県議会と連携した共同授業を実施した。
10. 現代社会を俯瞰し、現在自分が生きている場を客観的に見るきっかけを与えられていると思われる。
11. グループのプレゼンと個人でのまとめを組み合わせているが、個人による熱意の違いを感じてしまう。これをもう少し平準化したい。
12. コロナ禍の学生への対応が十分でない場合があった。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：1クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 23 (85%) 2.いいえ： 4 (15%) 未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。（複数回答可）

- 1.聞いて理解する： 12 (52%)
- 2.読んで理解する： 10 (43%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 17 (74%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 17 (74%)
- 5.討論する： 14 (61%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 14 (61%)
- 7.その他： 2 (9%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：10クラス（順不同）

1. グループ・ワークを中心に授業を実施しており、グループで創作した作品の発表等、学生の発表の機会を多くとっています。また毎時間 Webclass で課している振り返りレポートにおいて、コミュニケーション能力等、シラバスで本講義で育成する資質・能力として挙げられている観点から学修を振り返らせ、自分が学んだことや考えたことを文章にまとめさせています。
2. 全員にプレゼンを課し、学生相互で評価するような取り組みをおこなった。
3. 一方的な授業だけでなく、学生が自主的に地域について調べ、プレゼンを行うことで地域の理解、調査の方法など多面的な地域学習に取り組んでいる。
4. 報告会を最後の講義に行い、その準備をグループワークで実施した。学生リーダーを中心に役割分担、情報収集、スライド作成などを行い、実りある報告会にできた。
5. 子ども・青年に関わる文献の要約と考察を課題としたグループ学習を行い、発表と質疑応答を通してコミュニケーション能力の育成を図った。
6. レポートのピアレビュー
7. 学生同士のディスカッション、海外大学学生とのディスカッションなどを実施。
8. 異なる学部生がディスカッションできるよう授業内のグループを設定し、多様な専門的な視点から、授業で設定したテーマに係る討論や考察を学生に行わせた。
9. リアクションペーパーの提出
10. グループ毎にプレゼンをする時間だけ、Zoom による遠隔授業で行った。プレゼンの提示やディスカッションを他のグループと関係なく実施することができた。

D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 15 (56%) 2.いいえ： 11 (41%) 未回答： 1 (3%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 9 (60%) 2.6回～10回： 3 (20%) 3.11回～15回： 3 (20%)
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化： 8 (53%) 2.政治・経済・産業： 8 (53%)
3.自然環境・フィールド体験： 3 (20%) 4.その他： 5 (33%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：8クラス（順不同）

1. 宮崎をPRする旋律を作る活動
2. 県議会議員の講演
3. 宮崎県の伝統的な魚食の展開、および地域的に嗜好される酒類の展開を地域の諸特性との関連で解き明かす授業を行っている。
4. 宮崎のデータ、統計資料を学生に明示し、宮崎をどうするのかを考えさせた。
5. 特別支援学校の先生方や臨床の先生方に講義を行っていただき、障がいのある方が地域で生活するにあたってどのような支援が必要なのか、等について学んだ。
6. 国際協力に関して、土呂久鉦害とアジアヒ素汚染対策、国際協力事業による宮崎への高度人材導入事業「宮崎-バングラデシュ・モデル」、地域企業の国際協力などを取り入れた。
7. 宮崎県議会と共同授業を実施し、宮崎県における若者の参政権に係る問題等を、学生と県議会議員との意見交換を通じて学生に考察させた。
8. この授業は、もともと地域課題を統計データを用いて分析する授業であり、常に地域の課題を意識した授業となっている。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 0 (0%) 2.10%以内： 1 (4%) 3.10%～20%： 3 (11%)
4.21%～30%： 2 (7%) 5.31%～40%： 6 (22%) 6.41%～50%： 1 (4%)
7.51%～60%： 0 (0%) 8.61%～70%： 1 (4%) 9.71%～80%： 1 (4%)
10.81%～90%： 1 (4%) 11.91%～100%： 11 (41%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 4 (15%) 2.双方向（対話・討論）： 15 (56%)
3.グループワーク： 18 (67%) 4.フィールド型： 2 (7%) 5.メディア活用： 14 (52%)
6.TA活用： 1 (4%) 7.その他： 5 (19%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.授業を英語のみで行っている： 0 (0%)
2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 3 (11%)
3.英語のみで板書している： 0 (0%)
4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 6 (22%)
5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 3 (11%)
7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)
10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 1 (4%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 後期（学士力発展科目）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 62(71%) 2. 21(24%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 4(5%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 50(57%) 2. 33(38%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 4(5%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 44(51%) 2. 38(44%) 3. 1(1%) 4. 0(0%) 未回答 4(5%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 53(61%) 2. 30(34%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 4(5%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 42(48%) 2. 39(45%) 3. 2(2%) 4. 0(0%) 未回答 4(5%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 57(66%) 2. 26(30%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 4(5%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 46(53%) 2. 30(34%) 3. 3(3%) 4. 4(5%) 未回答 4(5%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 44(51%) 2. 32(37%) 3. 7(8%) 4. 0(0%) 未回答 4(5%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 40(46%) 2. 39(45%) 3. 3(3%) 4. 0(0%) 未回答 5(6%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 49(56%) 2. 34(39%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 4(5%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 14 (16%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 50 (59%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 12 (14%)
- 4.その他： 23 (26%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 31 (36%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 56 (64%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 26 (30%)
- 4.その他： 22 (25%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：38クラス（順不同）

1. 遠隔授業対応により ICT 活用が進んだ。
2. ライティング指導の強化。授業のはじめに一学期の学習スケジュールを明示する。
3. 録音講義の精度を上げるよう努力した。
4. 遠隔講義の技術についてはだいぶ向上したと思う。
5. 講義パートと学生の発表パートの接続を意識し、講義パートで出てきたキーワードを繰り返し用いて学生の発表への講評を行った。
6. 今年度は時事問題（コロナウイルス対応の日台比較）を取り上げることで、学生が今持っているであろう興味関心に応えるようにした。
7. パワーポイントの資料を形式的には簡略化しつつ、より詳細な内容にした。
8. 昨年度より制作しているオンデマンド教材を補足・強化することにより、完成度が高まっている。学生からの評判や学習効果も上昇している。（3クラス）
9. 授業内容および方法について受講生の多様な希望にできるだけこたえるために講座中にアンケートを実施した。座学希望とオンライン希望の両方の受講ニーズに応えた。受講生の理解レベルに応じて課題を準備した。
10. 授業資料の改善（スライドのほぼすべてを資料として提供する）
11. 本年度は受講生がやや減ったことから、より学生のニーズに応じて展開することを心がけた。
12. 昨年度アンケートでは、コロナ感染状況の影響で当初予定していた実技内容が実践できなかったことが残念であった、とのコメントが複数あった。この点で、2月以降の講義は遠隔形式で実施せざるをえなかったものの、積極的な実技の実践を行えるよう試みた。
13. 試験内容をより実践的な記述を含むようにした。
14. 録音講義の精度を上げるよう努力した。
15. 授業評価の回答に基づくというよりも、実際の授業の中での学生からの提案、学生とのやり取りを基に、受講生の実態に合わせた授業改善を図っている。（3クラス）
16. コロナ対策
17. 昨年度も学生の授業評価は高かったが、さらにわかりやすく興味を持つ授業になるように取り扱うトピックを新しくした。

18. 対面講義では学習に関連する内容のアンケートを事前に行って、その結果を講義に活用した。
19. コロナ禍において、学生の主体的な学習を促すために、対面授業及びオンラインでの双方向コミュニケーションによるワークショップ（アクティブラーニング）を実施した。
20. 対面講義での講義内容を一部変更した。
21. 受講人数が昨年度から倍になったため、授業で用いるスライド等の内容と理解しやすいものに変更した。
22. 小テストを導入し、学習意欲を高めた。
23. 小テストの回数を増やした。
24. 昨年度は遠隔授業が多く、対面での学生への応答を通じての指導が十分でできなかったが、今年度は主に対面の授業となったので、学生に自分で考えさせながらヒントを与えつつ、自力で正解にたどり着くよう促せた。
25. 昨年度と変わり、対面での実施を多く行った。そのことにより、コミュニケーション活動を昨年より多く入れることができた。
26. オンデマンド型から、Zoom を利用した同時型にしたことで、学生の質問に直接答えられたり、またこちらから質問することができ良かったと思います。また、Zoom を利用することで学生が音読するときに、他の学生の声に邪魔されることなく、それぞれが集中してやることができた点もよかったです。（2クラス）
27. 昨年度と変わり、対面での実施を多く行った。そのことにより、コミュニケーション活動を昨年より多く入れることができた。
28. 昨年度は、ウィルス感染拡大防止のため遠隔授業のみであったが、多数の対面授業希望学生がいた。それを踏まえ、今年度は感染対策に努め、可能な限り対面で授業を行った。（2クラス）
29. グループワークやプロジェクトの進み方に関してほぼ毎回の自己評価を行った。
30. 学生のニーズにより注意を払いながら、前半は TOEIC 対策を多く取り入れた。後半は、学生の習熟度も考慮に入れながら、各タスクの目的をできるだけ明示し、どのような作業をなぜどのようにするのかを具体的に示す部分を増やした。
31. Always adjusting（2クラス）

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：31クラス（順不同）

1. 反転学修を推進したい。
2. 毎回グループディスカッションを取り入れている。それに対する学生の満足度は高いが、各グループのディスカッションを十分モニターし、支援できていないと感じる。
3. 現役社会人講師による実学である点を意識し、感染症下であってもグループワークから発表会まで当初の予定どおり実施し、アクティブラーニング的課題、特に社会人基礎力の涵養は果たせたと自負する。
4. 講義開始時間までに教材をアップロードする努力をしたが、遅れることもあった。来年度はしっかり間に合わせたい。
5. 来年度も同様の遠隔講義を行う予定なので、PDF プリントと録音データをより良いものにしたい。
6. 可能であれば県内の生涯学習関連団体との連携による講義を実施したい。
7. 書籍、メディアで学べる歴史文化の知識を教えるだけでなく、教員自身が対象地域で体験した実体験を伝えることで、学生に、今世界で何が起きているのかをリアルに考えさせることができた。

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 後期（学士力発展科目）

8. 本科目によって、現代社会を俯瞰し、現在自分が生きている場を客観的に見るきっかけを与えられていると思われる。
9. コロナ禍の2年間オンデマンド教材の制作、補強、バージョンアップをし続けることで完成度を高めており、オンライン授業のノウハウの蓄積によって効果的な授業づくりができています。
10. 座学の受講生の基礎知識の幅が大きかったので、このギャップを補うための解説がやや不足していたように思われた。一部の受講生にとっては難易度の高い課題を与えた可能性がある。これが反省すべき点です。
11. 初めての授業で、多くの先生方の協力のもと実施した授業です。完全オンデマンド方式ということで、まだまだ改善すべき点もありますが、新しい授業の在り方として、挑戦していきたいと思います。
12. 世話人として、初回授業のガイダンスを担当した他、非常勤講師の授業担当者が円滑に授業運営できるよう都度対応を図った。（2クラス）
13. 天候の影響や、コロナ禍の授業形式の制限など、流動的な対応が迫られたが、WebClassの活用など学生との連絡を取り合いながら活動できたと考える。伝えたい学修内容をできうる限りの形で示し、実施した点は評価できる。反省は、流動的な部分で、実施予定として伝えていた中で一部実施できない学修内容が出てしまった。予測しえない部分もあるし、なるべくカバーしたつもりだが、想定幅を広げ、より弾力的に対応できる方法を模索したい。
14. 農学部や工学部の学生は教職科目を履修することにどの程度の意欲・関心を有しているのかがうまく掴めないままに授業を行った。次年度は教職科目を履修する学生の関心の所在を把握しながら授業展開を心掛けたい。
15. 講義開始時間までに教材をアップロードする努力をしたが、遅れることもあった。来年度はしっかり間に合わせたい。
16. 受講生が不在で、授業を実施していないので、他の設問については回答ができません。
17. もう少し学生から質問が出るような仕掛けをしても良かったと思います。
18. 受講生が多いため紙ベースでレポートを課していたがデータファイルで収集した。一部通信の不具合により、学生に迷惑をかけた。
19. 特に独文を解釈する際に、学生が間違った時、すぐに正答を教えず、ヒントを与えながら、自力で正解にたどり着くように指導できた。
20. 授業内の学生からの質問時間が5分程度なので、もう少し時間を作った方が良かったと思われる。（2クラス）
21. コロナ禍で開講状況がたびたび変わる中、どのような方法がより高い教育効果を生むかを考え続ける必要があった。（まさにPDCAの繰り返し。）
22. コロナ禍の2年間オンデマンド教材の制作、補強、バージョンアップをし続けることで完成度を高めており、オンライン授業のノウハウの蓄積によって効果的な授業づくりができています。（2クラス）
23. 来年は採点が必要なタスクを減らすつもりです（2クラス）
24. Zoomを利用してリアルタイムで授業をすることで、Breakout Roomを利用し、学生らが互いに問題を出し合う機会が持て、また、わたくしもその部屋を訪れることで学生からの質問に答えたり、発音や、訳出の訂正などができたことが良かった点です。（2クラス）
25. 急遽変更となった遠隔授業への対応を円滑に行った。
26. 英語母語話者（主に児童）を対象として作成された英語の絵本の教材分析及び読み聞かせの実践をテーマとするプロジェクトワークを計画し、受講者が英語の絵本の題材・構成や絵本で用いられる英語の特徴等を理解しながら、読み聞かせの実践に結びつけるための英語力の研鑽が可能になるように配慮した。授業の冒頭でミニクイズを実施し、英語の授業で役に立つ簡単な学習活動の紹介や自身の発音矯正を促すための学習活動を織り交ぜていた。このような学習活動を、授業全体の狙いと有機的に結びつくように取り入れられるように、今後は配慮していきたい。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：1クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 67 (77%) 2.いいえ： 15 (17%) 未回答： 5 (6%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 45 (67%)
- 2.読んで理解する： 41 (61%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 38 (57%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 47 (70%)
- 5.討論する： 32 (48%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 25 (37%)
- 7.その他： 8 (12%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：30クラス（順不同）

1. レポートのピアレビュー
2. 任意グループによるアクション演習5回、固定グループによる提言書作成、最終講義での発表まで学生間で実際にコミュニケーションをとる講義とした。
3. 後半は、グループワークを取り入れ、最後のプレゼンテーションもグループでの発表とした。
4. zoom のチャット機能を用いたディスカッションを行い、多様な考えについて意見を深めた。
5. 毎回講義内容の要約（150字）と感想（50字）の課題レポートを書かせた。来年度はその紹介をする形で少しでも学生とのコミュニケーションを図りたい。
6. 共生にかかわるテーマについてグループによる調査・報告を実施した。
7. 自分の疑問点や考えを文書にまとめさせた。
8. レポートで受講生自身の意見を記述することを課した。
9. ピアラーニングの実施。ペアを組んで、観察評価シートやICT機器を活用して、相互に教え合う学習活動をもうけた。学生の自省報告でもこの学修効果だけでなく、コミュニケーションの重要性や考えを言語化することができた様子が聞かれた。
10. 論理的に語るとはどういうことかを講義内容の一部として説明した。
11. 架空事例を提示し、対応方法の検討を行った。グループワークとすることで、相互の意見が示され、集約されるときに、コミュニケーションが行われた。資料に基づき根拠のある議論を行うよう促した。
12. 毎回提出させている課題レポートの一部を紹介した。
13. 企業に対するインタビュー、グループ討議
14. 企業に対するインタビュー、最終プレゼンの実施

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R3 後期（学士力発展科目）

15. ブレインストーミングによる討論内容の可視化
16. 技術倫理に関する演習に対して、自分の考えを倫理的観点に立って主張することを課した。
17. 特にレポート等において自分の言葉で表現することを指導した。
18. 独和辞典を使えば、簡単な文章なら理解できることを目標に掲げて、授業を行い、定期試験の結果から見ると、ある程度の成果が上がったと思われる。
19. 語学の授業なので、授業全般の内容が当てはまる。
20. 韓国語で簡単な日常会話ができるように練習した。
21. ペア練習を通して学生が話したり相手の話を聞いたりする時間を増やすようにしている。そのため対面授業では席を決め練習パートナーとの共同学習を意識させている。オンラインではペア練習は難しく指名して発言してもらうことが主になるので、録音課題を課すことで発話練習を促している。中間と期末の口頭試験は、テキスト会話を参考に、自分自身に関する話題（誕生日、住んでいるところ、趣味など）で会話することにしている。会話が2～3ターン続くことを目標にすることを事前に明示することで、テキストの単語、文型、場面、話題などを自分に結び付けて習得にしていこうと図っている。
22. 受講者の専門に関する内容をプレゼンテーションの形で相手に伝える活動を行った。
23. 授業開始前に、学生に直接英語で質問をした。また、ZoomのBreakout roomを利用して学生が互いに問題を出し合う作業を毎回実施した。（2クラス）
24. 受講者の専門につながる内容をプレゼンテーションの形で相手に伝える活動を行った。
25. 留学生に向けて英語で交流することを最終目標に、英語でのプレゼンテーション作成に取り組んだ。殆どの学生が実際に英語を使って自分の考えを外国人に伝えることは初めての経験であり、日本人特有の「自分の意見を述べることに慣れていない」「発言することが恥ずかしい」状況の中で、留学生に自らの考えを英語でどう伝えるかを考え、実践した。学習言語を実際に用いる機会の少ない学生にとって、教室を実際のコミュニケーションの場面に近づけることは、「国際化」する現代社会を実体験できる機会となった。
26. 留学生に向けて英語で交流することを最終目標に、英語でのプレゼンテーション作成に取り組んだ。
27. プロジェクトの取組みおよび結果の発表
28. 他国の大学生と、インターネットを通して自分のアイデアや考えを英語で書いて意見交換する活動を行った。
29. 英語の絵本の原典と原典をもとに一部改編された絵本の比較を通して気づいた点について、受講者同士で討論をする、英語の絵本の教材分析の結果を発表する、英語の絵本の読み聞かせの計画を練りながら実践案を発表する（一部読み聞かせの実践を含む）等が具体的な取り組みとして挙げられる。

D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 36 (41%) 2.いいえ： 42 (48%) 未回答： 9 (10%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 19 (53%) 2.6回～10回： 9 (25%) 3.11回～15回： 8 (22%)
未回答： 0 (0%)

Q21. 「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1. 歴史・文化： 15 (42%) 2. 政治・経済・産業： 23 (64%)
3. 自然環境・フィールド体験： 10 (28%) 4. その他： 10 (28%)

Q22. 「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：9 クラス（順不同）

1. 宮崎県の政治経済、金融サービス等についての講話を実施
2. 地域の企業や行政で働かれている方にコンテンツを提供してもらった。今後も増やしていきたい。
3. 宮崎自体は取り上げていないが、都市と地域における生活スタイルの違いなどについて考えさせた。
4. 宮崎への I ターン、U ターンを実施するために必要なことを学生自身に提案してもらい、プレゼンテーションをしてもらっています。
5. 授業コンテンツを配信し、その中で地域企業の紹介を行っている。地元で働く魅力が含まれており、就業意識の向上を狙っている。
6. 他国の学生に、自分の地域や国の文化や問題点について英語で説明し意見交換する活動を行った。（2 クラス）
7. 学生が互いに自分の故郷の紹介をし、その後故郷が抱える問題とその解決策について作文にし、提出してもらった。（2 クラス）
8. 他国の大学生に、インターネットを通して自分の関わりのある地域の特徴やその課題について、英語で説明した上で意見交換する活動を行った。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23. 全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

- 1.0%： 8 (9%) 2.10%以内： 4 (5%) 3.10%～20%： 5 (6%)
4.21%～30%： 12 (14%) 5.31%～40%： 9 (10%) 6.41%～50%： 5 (6%)
7.51%～60%： 6 (7%) 8.61%～70%： 0 (0%) 9.71%～80%： 5 (6%)
10.81%～90%： 9 (10%) 11.91%～100%： 20 (23%)

Q24. アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1. 少人数（10 人程度）： 24 (31%) 2. 双方向（対話・討論）： 43 (55%)
3. グループワーク： 40 (51%) 4. フィールド型： 5 (6%) 5. メディア活用： 43 (55%)
6. TA 活用： 4 (5%) 7. その他： 13 (17%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 10（11%）
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 17（20%）
- 3.英語のみで板書している： 9（10%）
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 23（26%）
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 10（11%）
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 19（22%）
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 13（15%）
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 14（16%）
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 16（18%）
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 12（14%）